



目指す学校像
キャッチフレーズ

東中だより

生徒一人一人を大切にし 信頼される学校
蕨東の あいさつ一つで笑東へ

生徒数(名)
男子 162
女子 178
計 340

学校外での「学び」

校長 阿部 仁

～学校行事が目白押しの6月～

先月は、1年生が「校外学習」に出かけ、2年生は「ワーキングウィーク」として職場体験を行い、3年生は古都 奈良・京都へ「修学旅行」に出かけた。学校行事としてはそれぞれ重要な意味があると同時に、生徒が成長する貴重な機会でもある。3つの行事に共通しているのは、「生徒たちの主たる学び(体験)の場が、学校ではない」という点である。



～学校行事が意図すること～

「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむ」(学習指導要領「学校行事」より)ためには、学習の場を学校外に求めるのが最適である。また、「勤労の尊さや生産の喜びを体得し、職場体験活動などの勤労観・職業観に関わる啓発的な体験」(同上)を得るためには、学校内での学習だけでは到底叶うはずがない。



したがって、数多くの関係者等の協力を得ながら、生徒たちにとっての「最適な学びの場」を学校外に設定することになるのだが、そこには必ず「学び」が伴っていることを忘れてはならない。

～「体験」あって、「学び」なし～

教科等の授業の中で、生徒たちが活発に意見交換したり、調べ学習等に熱心に活動したりしているものの、その1時間を通して、生徒自身が何を学んだのかわからない状態で終わる授業を指して「活動あって、学びなし」と言われる。同じことは、学校行事についても言える。学校外という主たる学習の場が変わるだけで、「学び」が欠落しては、学校が行事として生徒たちに提供する上で意味をなさない。「楽しかった」「大変だった」という感想だけのレベルを超えて、「今回の行事を通じて、何を考え、何が分かったのか、そして、学校とは異なる環境下で、どのようなことを学び得たか」を問うことが、実は一番重要なのである。五感で感じたことを分析する作業は、知性を活性化する方法としては非常に有効である。だから、学校行事を行う際には、事前学習や事後学習がセットになっている。単なる準備や振り返りではない、「学び」の場が、意図的、系統的に用意されているのだ。

物価高騰、物流問題、オーバーツーリズムなどの現象は、学校が行う旅行・集団宿泊的行事に影響を与えている。学校だからこそできる「体験を知見に換える知的活動が担保された行事」の在り方を再認識し、実施していく時期に来ている気がしてならない。

